

令和3年度第2回御前崎市総合教育会議

日 時 令和4年2月24日（木）  
午前9時00分～10時30分  
会 場 御前崎市役所 3階 303会議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協 議
  - (1) 令和4年度 御前崎市教育計画について
  - (2) その他
- 4 閉 会

出席者名簿（敬称略）

市 教 育 委 員 長	柳 澤 重 夫
教 育 委 員	河 原 崎 全
〃	竹 田 和 世
〃	島 田 惠 美
	松 林 義 樹
副 市 長	鴨 川 朗
総 務 部 長	鈴 木 雅 美
健 康 福 祉 部 長	齊 藤 芳 樹
教 育 部 長	長 尾 詔 司
学 校 教 育 課 長	鈴 木 秀 和
社 会 教 育 課 長	小 野 田 明 人
教 育 総 務 課 長	高 田 和 幸
教 育 総 務 課 課 長 補 佐	栗 林 正 和

欠席者名簿（敬称略）

教 育 委 員 野 口 智 美

## 1 開 会

○司会 皆さんおはようございます。ただいまから、令和3年度第2回御前崎市総合教育会議を開会いたします。なお本日、野口委員ですが急用がありまして欠席となっております。最初に市長あいさつ。柳澤市長お願いいたします。

## 2 市長あいさつ

○御前崎市長（柳澤重夫） 皆さんおはようございます。今年は例年になく、大変厳しい寒さが続いております。特に、北陸をはじめ北海道のほうでは過去にないような大雪ということで、先日もテレビで新潟のほうでは4m余の雪が降り積もっているということで、日常生活に大変な不便をきたしているのではないかと思います。そういった中で私どもの地区を見ますと、もう早咲きの桜も咲き始めまして、もうそこまで春は来ているという状況の中で、本当に地域によっては大変な苦勞されています。また、寒いとは言いながらも、こうした日常生活ができるということは、本当にありがたいなというふうにも思っているところであります。また新型コロナウイルスにつきましても、少しずつ全国的には減少傾向が見られるわけではありますが、高止まりといいますか、なかなか減少に至っていないという中で、かえってその重症者も増えているというようなことも放送されております。そういった中で第5波以上に死亡者も増えているということでもありますので、大変心配するわけでもあります。皆さんも気をつけているわけですが、なかなか感染が収まってこないというような状況であります。家族感染が1番の元だというふうに思いますので、どうしても家族で食事するときに、お話をしたり、そういったことも少しずつ家族の中で気をつけながら、家族感染やそれに関連した感染、こういったことを今一度、みんなで気をつけて、家庭や地域からウイルスは、もう終わるようにしたいなと思います。また今回は、BA-Ⅱと言いましたか、新しいウイルスが神奈川、大阪のほうでも確認されており、またこういったウイルスが出ると、その感染力等も強いとも言われていますので心配されます。今一度しっかりとした感染対策をやる必要があるかなと思っています。あと、今日は教育委員の皆さんには非常にお忙しい中、こうして第2回の総合教育会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。また御前崎市の教育に対しましては、格段の御理解と御協力をいただいておりますこと、心から感謝申し上げたいと思います。そういった中で、今日は令和4年度に向けまして説明をさせていただき、そのあと皆さんからいろんな御意見をお伺いしながら、より良い御前崎の教育に向けて進んでいきたいと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いを申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

○司会 ありがとうございます。それでは次第に沿って参りたいと思います。最初に協議に入らせていただきます。協議の進行は、市長をお願いいたします。

## 3 協 議

- (1) 令和4年度 御前崎市教育計画について
- (2) その他

○御前崎市長（柳澤重夫） それでは早速ですが、3番、協議事項に入ります。令和4年度の御前崎市教育計画資料につきまして、説明をお願いします。

○教育長（河原崎全） おはようございます。教育長の河原崎でございます。今日は、教育長という職務が教育委員会事務局の事務局長という役割も担っておりますので、私から、来年度の御前崎市の教育の計画案について、説明をさせていただきたいと思っております。着座にて失礼します。最初に資料1、2、3とありますが、2と3を御覧いただきたいと思っております。資料2は園と学校教育の関係、資料3は社会教育の関係でございます。

最初に資料2の園と学校教育についてでございますけれども、1番上にあるように教育大綱にある大きな、この関係の目標が『思いやりがあって、互いを認め合え、たくましくしなやかな子供が育つ』というのが、当市の園学校教育の子供たちにあってほしい姿でございます。それに向かってどの様な図式で教育活動を進めていくかということですが、その次にスクラム・スクール・プランで進める途切れのない教育とありますが、これも皆さん御存知のように当市の大きな特徴が、園から小中高校まで連携をして繋がっているということです。園、小学校、中学校、高校の下に幾つかありますが、この真ん中部分あたり、可能性に挑戦するために必要となる力の育成と左側にありますが、このあたりには子どもたちにどういう力をつけてほしいかということに記載しております。その次の基盤整備は、どういうふうにそれを支えていくか。また、家庭地域の教育力の向上、これも子供たちを支えていく部分に当たるかと思っております。最初に、子供たちに身につけてほしい力についてでございますけれども、1つ目が多様性を認め合い、互いを思いやる心の育成、最初に申し上げたところと同じわけですが、やはり学力とか体力も大事ですが、その前に、さまざまな子供たちが今いるものですから、お互いに自分も認める、他者も認めるという心を持ってほしいということを第1に挙げております。2番目に学力の関係になりますけれども、園の段階では学力というよりも遊びこむ、好奇心旺盛に何かに夢中になるというような、保育、教育のスタイルを当市では大事にしています。それが、学校に進学して各教科の活動につながっていくところになります。学力の定着というところが四角で囲んでありますが、その次に、探求的な学び共同的な学びを深めていく、これは国、県の方針に沿ったものでございます。そのために、当市では授業改善アドバイザー、大学の先生にもおいでいただいて指導を受けています。また、その下になりますけれども全国の学力学習状況調査、あと当市独自で業者に標準学力調査等を依頼しておりますので、こういうものを活用していきます。その下に、ICTの効果的な活用とありますが、これはもう今、全国でも力を入れていく部分になっておりますけれども、1人1台端末が今年度導入されましたのでこれをどう生かしていくかということが、大変重要なところになると思っております。今年度から、ICT支援員の学校に来る回数を増やしていただきますが、来年度も継続していきます。また、先生方のパソコンを活用した授業の研修会も、充実させていく予定でおります。その次が体力の向上ですが、全国の体力調査の結果によると全国平均を上回っているものが多いものですから若干安心しているのですが、こういうコロナ禍の中で活動が停滞しているということもあるものですから、やはり体力面は意識していかなきゃいけないなということと、その欄の右端に書きましたが、健康課題、例えば視力ですとか、歯の問題でありますとか、そういう体力以前の問題で気になる子供たちも増えているものですから、養護教諭と連携をしながら、そこにも力を入れていくということと、新しい給食センターができましたけれども、食育についてもやはり食というものが健康の基本になるものですから、そこも給食センターと連携をとって充実しなきゃいけないと思っております。その下は心の問題ですが、ここ数年ずっと力を入れておりますけれども、読み聞かせ、読書、これはアスパルと学校図書館が連携をしながら、またボランティアの方々にもお力をお借りして子供たちの読書習慣をつけるということは力を

入れておりますので継続していきたいと思っています。その下の市の特色を生かした愛郷心の育成ということで、これは社会教育課の事業、御前崎クエストが中心になりますけれどもこれを拡充していくこと。あと、中電さんですとかマリンスポーツクラブさん等と連携をとりながら、エネルギー教育とか海洋体験という当市ならではのということにも力を入れていきたいと思っています。このあたりまでが、子供たちにつけてもらいたい力というようなところであります。その下の、個を大切にせる教育。これは、さまざまな子供たちが増えていきます。特に、特別な配慮を必要とする園児児童が年々増加をしています。特別支援学級等も、各学校で増やしているところがございますので、そういう子供たちに対してきめ細かな対応をしていく。また、当市の1つの課題である不登校の子供たちに対しても、その未然防止のための対応をとっていく。また、なかなか行けなくなってしまう場合には、サンルーム等でどういうふうに今後指導していくか等、充実した指導を考えて、そこも充実が必要だと考えています。その下が支える部分になりますけれども、先生方、一生懸命やってくさっています。本当にお忙しい中、頑張ってもらっていますので、先生方が気持ちよく働ける環境づくりと、あといかに多忙を何とか少なくしていきたいという、その対応が大事かなと思います。また、ハード面ですけれども、こちらについては浜岡中学校の校舎建設、学校給食センターと、当市にとって大変大きな事業が、昨年、今年で終了しましたので、施設については傷んだところを更新していくところを中心になるかと思えます。その下にある、再編整備の問題がこれから大事になってきます。園についても、白羽方面の保育園、幼稚園をどう再編していくかということだとか、あとほかの園でも園児の数がここ数年で急激に減る園も出てきておりますので、その辺りをどう将来的に考えていくかということも大きな問題になっていきますので、園についてはこども未来課と協議をして、学校については、再編検討委員会を立ち上げておりますので、来年度中に結論を出していきたいと思っています。その下が、家庭と地域でどういうふうに子供たちを支えていくかということところです。これについては、今年の大きな活動の1つであるスクラムスクール運営協議会、今までは市全体で動いていましたが、今年度移行期間を経て、来年度から正式に学校単位で動いていくというようなことにもなっておりますので、よりきめ細かに地域と連携をとって、学校を支えていく活動ができればいいなと思っています。そういう中で当市として進めてきた、早寝早起き朝御飯、もう一つはゲーム障害、ネット依存の防止というものがありませんが、来年度はただ防止ということよりも、いかに上手にお付き合いしていくかということところで、端末や電子メディアとの主体的自律的な関わりをテーマに協議を進めていければと思っています。あとは右端になりますけれども、防災関係では自分の命は自分で守るという命を大切にせる教育、各地域での活動への参加というものも大切にしていきたいと思っています。以上が、学校教育に関するものです。

もう一つ資料の3ですけれども、こちらは社会教育に関する部分です。社会教育について1番上に書かせてもらいましたが、生涯にわたってともに学び続け、互いに高め合う市民が育つということで、学校以外の場が全て社会教育になりますけれども、大人の市民の方が充実した学びの活動を続けていけば、それもその人の充実した人生にもなりますし、子供たちにもいい影響が与えられるのではないかと思います。社会教育については、社会教育委員さんがいらっしゃいますので、全体の活動に対して御意見をいただくことになっていきますけれども、細かな分野でいきますと、4つの枠に囲ってありますが、4つに分かれます。左の青少年の健全育成が1つ。真ん中の1番上になりますけれども学びの輪の醸成、これは成人学習ですね。大人の方々の生涯学習に当たる部分です。1番真ん中がスポーツの振興、あと下が文化芸術の継承と振興と文化財の保存という文化的なもの。この4つが社会教育関係の大

きな分野に分かれると思います。青少年健全育成については、子供たちが対象になる部分が多いわけですが、先ほど申し上げたような青少年健全育成にかかる部分、あとその前の家庭教育の支援に関わる部分、あと成人になっていく人たちには、今までは成人式がありました。来年度から御前崎市 20 歳の集い、仮称ですが、こういう形に変えていく予定でおります。成人学習については、御前崎学びの航海図、あと学びのパスポート、これについては3月、もう少したつたところで、教育委員の皆様方にも御提示できるかと思いますが、今、こういう自分の人生の中で、どの年代ではどんな学習をすることがあるのだろうというような全体像を示すものがもう少しで出来ますので、市民の方々に提示をして自分がどんな学びをしたかという記録をする学びのパスポート、これもお分けして、それぞれで、自分の一生の学びというものを大事にしていってもらい予定でいます。真ん中のスポーツの振興については、いろんな方々が気軽にスポーツのできる環境づくりを、スポーツ協会であるとかスポーツ推進委員の皆様方と連携をしながら進めていくというような計画でおります。1番下の文化芸術の振興については、振興公社の事業でありますとか、文化協会、文化祭等と連携をとりながら進めていく予定でおります。あと、文芸おまえざきも毎年 100 人前後の方から投稿いただいておりますけれども、当市のそのときの生活をあらゆる大切な記録になるものかなと思いますので、継続して発行していく予定です。また文化財につきましても、ウミガメとその産卵地の保護活動を中心に、市内各所にある文化財の保存に力を入れていく予定です。こうした4本の柱がございますけれども、そのほかに施設との関連もございます。現在振興公社に指定管理で委託をしている幾つかの施設がございますので、その施設の整備の改修、あと宿題としていただいております施設の使用料の見直しの問題も課題としてございますので、来年度はそこを考えていかなきゃいけないと思っております。

というような以上、資料2と資料3で学校教育と社会教育の全体像についてお話をさせていただきました。

それを受けた形で、資料1になりますけれども、こちらが来年度に重視していく、重点にして取り組んでいきたいというところです。この資料1につきましては、1番左端が市の総合計画のどの部分に当たるかということ。左から2番目が、今年度、令和3年度、こういうような重点取組としてやりました。その右側が振り返りとして、こんな反省がありました。それを受けた形で、太い枠で囲ってありますけれども、令和4年度の重点取組としては、こういうところを伝えていきたいと思うということで挙げさせていただきました。令和3年度とほとんど変わりませんが、若干文字を変えさせていただきました。右端は、その重点取組をするためにどういう事業をやっていく予定でいるかということで話をさせていただきます。3枚目までで 16 点ほどありますけれども、先ほど説明したような中の主なところをここに書き出したような形になるかと思いますが、個々の説明は省略をさせていただきます。こんなところを主な物として考えていきたいと思っています。私からは簡単ですが、以上です。

○御前崎市長（柳澤重夫） ただいま教育長から、学校教育をはじめ社会教育、こういったことにつきまして社会を振り返って、またあるいは4年度につきましてもですね、この計画でも御説明ありましたが、教育委員の皆さんからこういったことにつきまして御意見でありますとか、さらにこうしたほうがいいのかとか、そういった提言がありましたら、お願いしたいと思います。はいどうぞ。

○教育委員（竹田和世） 前回の教育委員会でのテーマも、前年度のものをい出してそれを

たたき台にして話し合いがされたのですが、改めてこれを見ましたときに、自分の中でちょっと気がつくことができました。まだ、これが案になっているので、もう1回思ったことを言わせていただいてもいいのかなと思っておりまして、教育計画っていうことになっていまして、御前崎市の教育って思ったときに、やっぱり1番は学校教育だろうな。そして学校というところは勉強に行く所ですから、そこでのまず1番は、学力向上じゃないかなということのを思いました。それを思いながらこれを見たときに、7番目に学力の向上についてのことを書いているのですが、何か私の中で基礎学力って割と良く使われますけれども、何をもって本当に基礎学力というのだろうかと思ったときに、小学校で足し算、引き算、割り算、掛け算する基礎学力というのか、国語で、平仮名、片仮名、漢字、それを基礎学力というのかと言ったら、それとはまたちょっと違うような気がしています。それから、今、中3生は入試の時期で、一応滑り止めという私立の発表があって、今、本命に向けて子供たち頑張っているのですが、その中3生に向けて基礎学力じゃないでしょというところがあったりして、なんていうのかな。それで、今中3生のお母さんたちとっても必死ですし、そう思ったときに、そこに来てそういう思いをさせるのではなくて、その保護者の方の本音というか市民感情とかそこまで言っているのかわかりませんが、そういうところのずれというか、何かこう計画が曖昧模糊としているというか、そんなものをちょっと感じてしまいました。例えば、ALTとか、ICT支援員とか、しおかぜ先生とかっていうのを、御前崎市として市の予算でやってくださって、それってとてもありがたいことだと思うのですが、やっぱりそれは、子供たちにとっての学力向上ということに直結していかなかったら、やっぱりもったいないというか意味がないというか、そんなことがすごく思いました。私よく、幼稚園訪問とか学校訪問とか伺ったときに、非認知能力っていう言葉をよく使わせてもらっているのですが、それは学校というところで、学習によってその学力を上げるっていう認知能力があった上での非認知能力で、その学校で学習をする、でも学校というところは集団生活を送るところで、大勢の子供たちが共同生活を送っている。そこで、人を思いやる心であったりとか、協調性であったりとか、またちょっと自分が我慢しなくちゃいけない心とかっていう、そういう非認知能力をつくるどころ、認知能力があつての非認知能力を育てるっていうところも、そっちが何か後になってしまっちはいけないかなと思っています。では学力向上に向けて、具体的にどんなものがあればいいのかと、それってとっても難しいと思います。他の学校、要するに他の例をちょっと見ると、その習熟度別クラスで学習させていたりとか、あと英検とか漢検とか数検とか、そういうものをうまく利用されている学校があったりとかで、英検とか漢検とか数検とか級があるじゃないですか。それを1つ1つ自分の力でクリアしていくという、そういう何かモチベーションというか、生徒たちがこの目標を持ちやすい、わかりやすいものじゃないかなって、それだけじゃないですけど、ほかの学校から学ぶとしたら、何かそういうものもあったのではと思いました。先日、オリンピックが終わって、小平奈緒さんが金メダルをすごく期待されていて、でも駄目だったときに彼女が言ったことがね、「成し遂げられなかったけど、やり遂げられました。」というのをすごく清々しく言っていて、目標に向かって、いろんなフェーズで子供たちが「これできた。」という、そういうのを、学校生活の中で1つ1つ作っていったらいいのかなと、何かその精神論みたいですが、何かそんなこともすごく思いました。今、コロナで教育委員会の研修視察も行けない状態になっているのですが、1番私が直近で行けたのが、敦賀市、福井県敦賀市だったと思うのです。それであそこは、山形県とか、福井県とか、別の学力調査なんかで、いつも高水準のところを行っている、そこを視察に行かせてもらいました。3年くらい前になってしまい、記憶が定かではないのですが、その中で1つ、私の中ですご

く印象的だったのは、中学校の廊下に棚が置いてあって、そこに入試の過去問が置いてあって、それを子供たちが自由に持って行って学習しているって、何かすごいなっていうことを思いました。それに、何か校長先生も自信に満ちていましたし、子供たちも何かすごく自信を持って学習しているような、そんな雰囲気を感じ取ることが出来ました。せっかく、施設視察に行かせていただいたので、何かこれを生かしていけるのかな、生かしていくのか何かしていけるのかなって思っていたのですが、何となく2年が過ぎてしまっていて、自分の中で生かされたのだろうかみたいな、そういうのもあって、目標って難しい。数字で表わせばいいのかとか、すごく難しいですけど、何となく、曖昧模糊としているところが多いような気がしてしまったのも事実です。私、もう2年、3年とたってしまったので一緒に視察に行かせてもらったのが島田さんですから、私は司会じゃないのですが、島田さんに、その時の感想をお願いします。

○教育委員（島田恵美） 私も記憶のほうあまりありませんけれども、福井県のほうに行かせていただいたときは、すごく刺激的で、こんなすばらしい教育をやっているのだという印象が多かったです。先ほど中学校のことを竹田さんお話ししてくださったんですけども、小学校と中学校の、両方視察させていただいて、小学校は国語力の研修をなさっていたと思うのですが、ちょっと御前崎と違うなと思ったところは、音読をすごく力を入れていて、教科書もすごいみんなでそろえて読むのですが、声を出すことで学力につなげているということとか、あと俳句を作ったり、黒板に旧暦の月、睦月、神無月というのは、どのクラスにも書いてあったりとか、そういう何て言うのかな。子供たちの学力アップするための手だてというのは、多く見られた視察だったなと思いました。工夫されているところが多くて、参考になることが多かったのですね、御前崎市に持って帰ってきて、実践出来たらいいなって当時思ったと思います。

○御前崎市長（柳澤重夫） いかがでしょうか。今、視察の感想がありましたが、竹田さんは、学校教育としては学力向上が一番ではないかという話なのですよね。非認知度のお話もありました。これは大事な話であります、学力を上げたいと思うのですよね。みんな先生方もそうですが、その学力を上げるための手だてといたしますかね、そのためにはどういった手法でやった方が、学力を上げるために効果といたしますか、ただ先生方が一般的に教えるのがいいのか、そうじゃなくて、教え方、前段階でこういった教え方した方が向上につながるのではないかとかそういういろんな工夫があると思うのですよね。そういったことも、1つの研究材料だと思うのですね。子供ってそういうものじゃないかと思うのですね。この先生良いなと子供が思うと何か一生懸命頑張って、いやこの先生ちょっといやだなと子供が思うとちょっと頑張れないとか、そういったことも関係する場合もあると思うのですよね。そういったものを全てのことを、全体を整えることはなかなか難しいと思うのですよね。学力というのは、1人1人それぞれによってその習熟度というか、そういったものも違うと思いますしね、一律じゃないものだから。ただ、学びたいという気持ちだけは、子供たちに持たせるというのが大事だと思いますので、そのためにはどうしたらいいのかということだと思うのですよね。そういう話は松林先生、どうでしょうか。長い支援というところは。

○教育委員（松林義樹） 自分はその視察旅行へは行っていなかったのですが、まだ現役で学校にいたときですけど、全国学力学習状況調査が始まって、各地域の学力というか、点数が公表されるようになって、非常に厳しい目で見られるなということを感じました。ただ、

それを向上させるために手っ取り早い方法、指導方法、なかなか見つからずに、現場で苦しんでいた。御前崎の施策というか、いろいろと授業アドバイザー、奈須先生とか、たくさん来てくださって、指導を受けたり、読み聞かせだとか読書だとか、そういった、本当に小さい頃からの積み重ねを大事にしている。そういったものが、徐々に積み重なって、学力っていうものになっていくのかなっていうような、そんなことを、当時思ったことがありました。本当に、一長一短には、何かできないかな。ただ、これは自分個人の考えなのですが、学習教科については好きにさせてやる。楽しいな、やってみたいなということを、子供たちに、何か見つけさせてやったり、体験をさせてやったりだとか、そういったものが教員にたくさんできれば、その後の力、伸びにつながっていくのかなと、現場にいた当時は、先生たちともそうやって話をしました。そのために、どんなものがあるかというとなかなか具体的には言えないのですが、読書にしても、読書って面白いな、読み聞かせていいなというようなものも、あとの伸びにつながっていく素晴らしいものだなと思って、学校の中でやったりしてきたのですけれども、そういう形で地道にやっていくしかないのかな。市でやってくださっていることは、本当にいろいろたくさんお金をかけて時間もかけてやってくださっているものですから、どれぐらいの成果が出たか検証しながら、もう少し継続していく必要があるのかなと感じています。

○御前崎市長（柳澤重夫）　そうですね。小学校、中学校と卒業をして、あとは社会に出てからどうなっているのか、追跡といいますか、わからないですね、やっぱり。

○教育委員（松林義樹）　自分は中学校までだったのですが、そのあとの伸びというのがね。どうなるのか、御前崎の子たちはそこで止まっちゃうのか、将来的に大人に社会人になってくるので力を発揮出来ているのか、これもすごく興味あることかな。

○御前崎市長（柳澤重夫）　それが社会に出たときに、高校を出て、大学を出て、その子供たちが社会に出て来たときに、今、どういった活動をしているのか、お勤めしているのか、わからないですよ。だから、そこら辺は追跡できる、ある程度、分かるところですよ。どういった社会活動をしているのか、腹を割って上手くコミュニケーションをとってやっているのか、そうでなくてメンタル的に壊れている人がいるのか。そういったことを調べたときに、学校の教育にこういったものを取り入れた方が良いということが分かればいいけど、分からないのですよね。通知がないから。ただずっと同じことをやらざるを得ないというのかな。ただ、今の社会、昔は学歴を重視した雇用体系というかね、企業によってももちろん違うけど、今このICTだけ、学歴じゃなくてそういった見直しがされてきたので、企業の雇用体制が、人事担当あたりが、そういった学歴一辺倒ではなく、人間性を見るようになってきている。だからそういったことも含めて、社会へ対応できるような人間味のある人を教育していかないとならないと思うのだけど。その根底として、基礎学力がもちろんあるのだけどね。ただ勉強だけ、学力だけを教えて、卒業させてしまっただけなのか。豊かな心や、そういったものを併せて学校教育で指導していかないと、社会に出てから、頭は良いのだけど、人間性が駄目だとかということにならないようにやっていかないとならないと思うのだけど。1番良いのは、私が小さいころには、「子どもは遊びが仕事。」と良く言われたのですよね。勉強なんか帰ってするような関係じゃなかったし、帰ってくれば上級生も同級生も下級生も束になって遊んで、近所の家を渡ってみたりとか、いろんなことをやったのだけど。そういった子どもの頃の遊びを通じたもの、コミュニケーションとかそういったものが、無い

のですよね。遊びを通じたものがね。僕はそういったものも、必要だなと思うし、まあ難しいのですよね。ただ私は、1番思うのが、子供たちが卒業して社会へ出て、いつも言うように御前崎の子供っていうのはすごいな。いろんなことを知っているな。こんなことも、あんなことも知っているな。どんなことでも対応できるなど、そう育てたいので、私は。ただ、何を言われても、全然体験したこともないし、やったこともないし、言われたことをやっても手がつかないしと、こうではなくていろんなことを体験してですね、そういったことが大事だと思うのですよね。言われたことは、すぐ手をつけられるような、それには、いろんなことを体験するしかない。私が浜岡町で議員だったときに一般質問して、学校教育の中で、職業教育というか、子どもの頃から、地元には今こういう企業、仕事がありますよとか、そういった職業というかそういうところも、やる必要があると思うのですよね。学校を卒業してから、地元にはどんな仕事があるのか全くわからないじゃなくて、こういった仕事は地元でもあるよ、社会にはこういった仕事があるよと。それで例えば、いろんな建設業もあるよね。大工さんもあるし、美容院もあるし、床屋もあるし。そうしたことをわかって卒業すると思うのだけど、結局目指すものはみんな企業とかばかりなのですよね。だから全国の産業が成り立たないというか、そういった大学もそうだけど、誰かいるかもしれないけど、そういったものが成り立たなくなってしまう。建設業ももちろんそうだけれど。だから、子どもの頃から、そういった職業に関心を持つようなことも、やはり必要なのかな。それが幅広い教育にあたると思うのですよね。生きていく上で。四国の香川県に多度津町という所があって、多度津中学校へ電話して聞いた話だけど。その校長先生が多度津中学校に赴任してきたときに、中学校がすごく荒れていて、生徒がどうしようもなかったそうです。校長先生はカリキュラムを自分で組めるよね。だから、その校長がカリキュラムを組んで、近所の竹藪みたいな山に、イモ畑を作ったらしいのです。生徒に時間を作ってあげて、全部やらせて。生徒の中で言われたとおりに一生懸命やっている生徒がいる。だけど、いたずらばかりしていたような子供たちは、「何でそんなことをしなくちゃいけないんだ。」と最初はやらなかった。それでもみんな、ずっと続けてやっていたら、その子供たちもみんなが一生懸命やっているのに、自分だけ出来ないというのは、何か格好が悪いと思ったのか、一緒に一生懸命やるようになったということです。それでみんながイモ畑を作るようになって、みんな挨拶なんかすごく良くなったということです。1番良かったことは、それによって全体の学力が良くなったということです。そういったことで、先生が相当思い切ったカリキュラムの中で学校を立て直したという話もあったものだから、聞いてみたら、やっぱりそういった話は事実であったらしいのです。今、そんなことしていたら、校長先生も怒られちゃうけど。だから、この先生の指導方針っていうか、その先生の情熱っていうか、子どもに対するそういったものが、生徒に響いたのではないかと思うのですけどね。心に響かない教育ってダメですよ。先生に殴られたり、怒られたり。同じようにあるのではないかな。だから先生の事は覚えている、子どもの頃、そういった意味で、何ていうかな、教育というのは生きていくと、できると思うのですよね。子供たちの心にそういった教育をするのは大事なところですよ。教育というのはアイデアですよ。先生と生徒のアイデア。それはお互いにその生徒と先生と、できる、できないは別にしても、人と人のぶつかり合いだからね、教育って。そういった気持ちでやってくれば良いと思うけどね。先生方には、学力はもちろん、この子供たちが社会人になったときに役に立つ、人としての成長も視野に入れながら教えてもらうということもお願いしたいのですよね。最近をよく、最低限の段階を教えればそれでいいというサラリーマン先生が増えているっていうけど、先生というのはやっぱり、そういうものじゃないと思いますよね。人をつくるのだから。人間をつくるようなものが教育なのだから、

そういった心を込めて情熱を持って先生にはやってもらいたいと思う。私はそう思っていて、それが生徒の心に響くと思うのですよね。いろんな事を言ってしまいましたけれど。申し訳ない。皆さんからもどうぞ。

○教育委員（竹田和世） 浜中が新しくなって、給食センターが新しくなって、子どもたちも、地域の方も先生たちも自慢だと思うのですよね。今、校舎の自慢というか自信、今すごくチャンスだと思うのですよ。浜中に行きたいという子どもたちが今年はちょっと増えたという話を少しお聞きしたのですけども、本当に校舎が新しくなって、学力にも改めて力を入れるとき、チャンスのときなのかなと思います。資料の教育計画も、すごく具体的に立ててあって、わかりやすいので、これが、ぜひ学力向上につながるようになってほしいなと思います。この8番のGIGAスクールのところには3年計画と書いてあるので、プラス基礎学力とか、学調とまではないですけども、その計画も、何年計画という具体的なプランがあると、それで成果につながってまたやる気ということで、流れが出来ていくといいなと思います。学力の見える化というのが大事だなと思うので、なかなか数字だけで表わすと、それで終わってしまうのですけども、そういうプランなんかがあって、できるようになっているのだなとか力になったのだなと実感できれば、さらに向上していくものになるのかなとも思います。

○御前崎市長（柳澤重夫） そうですね。浜中も立派な校舎ができて、浜中としても誇れるような、学力もそうだけど内面も誇れるように。あと教育委員の皆様も先生方に会ったら話をしてくれるといいね。先生方は先生方で、やっぱり一生懸命頑張っているという声は聞こえるのでね。だから、先生方が一生懸命教育できる環境をつくってやらないといけないしね、一生懸命頑張っていますよ。聞いてみるとね。

○教育委員（竹田和世） 市長さんもいらっしゃるのですが、ちょっとお願いみたいなことなのですが、人って、自分に身につまされないと考えられないことってあるじゃないですか。それでね、私の友達のお孫さんが、自閉症スペクトラム障害だって診断されたということで、早くにわかったものですから、幼稚園に行きながら、新野のめばえ、あそこに通園しているのですよ。それで、まだまだ4歳なところなのですけど、でも、その家族にしてみたら、もうその先がずっとずっと心配で、もう暗いトンネルの中に入っちゃって。そのときに、例えば御前崎市のサンルームの存在であるとかね、御前崎市の各普通学級での支援級でこういう学びをしているのだよとか、またそのもっと前の段階で、幼稚園の療育、そういう施設が市内にもたくさんあって。で、友達の子は、今、年少さんで、今度、年中さんだけど、もうめばえに行けなくなっちゃったのって。どうしてって言ったら、この子が決していいように改善されたのではなくって、行く子がいっぱいいるので、もうおたくの子はいいにしてくださいって言われてしまったってことです。だから、そのぐらいコミュニケーションが苦手な子とか、その強いこだわりがある子という、そういう子たちがすごく増えていて、すごく不安を抱えているお母さんの数は、確実に増えていると思うのですよ。それで、お願いしたいなというのは、サンルームなんかで、その中に入った子供たちがどういうふうになっているかっていうのはこの間すごく伺って、すごい成果を上げていらっしゃるっていうのもよく分かったのですけども、その悩みを抱えている人たちは、どこへ行ったらいいかも分からないでいるっていう人たちがとても多いので、広報とかしてアプローチしていけたら。この先がずっと長いトンネルで先が見えないのではなくて、こういう道があるよ、こういう道もあるよということを少しでも示してあげられたら、少しでも不安が解消していくのではない

かなって思います。静岡新聞のグルメの広報誌の1番最後のページは、浜松市の療育とか、そういうページになっているのですよ。そんな感じで何か、市の広報誌でないにしても、いろんなところでそういう情報を預かり、そういう子たちがすごく多くなっているから周りの人たちも、そういう子たちに対してどう触れあっていったらいいとか、広報の力で何とかこうアプローチしていただきたいなっていう気持ちが強くあります。

○御前崎市長（柳澤重夫） 本当に増えているよね。新野のめばえも東遠学園に全部無償譲渡して、東遠学園に全体の施設としてやってもらっているけど、今度は御前崎市の他にも新しく作りましょうという話を聞いていて、増えているのですよね。そういった自分の子のことをそう認めたくないという親もいるし、認めざるを得ないということもあるし、なかなか難しいのですよね、これ。こちらからもどうですかとも言えないし、だから難しい面もあるものだから、そういうためには折を見て、またどんな方法があるのか、考えたいと思います。

○教育委員（竹田和世） ぜひお願いします。

○御前崎市長（柳澤重夫） そんな悩みというか、人それぞれ持っている人がいるのですよね。だから、なんとか乗り越えていかなくてはならないとも思うし。他にはどうでしょうかね。

○教育委員（松林義樹） すいません資料2、A4の横の資料の中で、左に黒い矢印がね、下の基盤、支えとか、園、学校へ、こういうふうを支えてやっていきますという図になっていると思うのですが、そのすぐ横に新型コロナ感染症への対応というのが点線で囲まれているのですけれども、本当にここ2年、もう少しで3年になるかな、非常にこのコロナの影響で、学校教育とか園とか、いろいろなものが、教育活動が縮小されたり、中止されたりしてきているのを考えると、これをもっと、全体を囲むような、1番の基盤に今はなっているのかな。それをきちんとしていくことが、非常に重要なと感じざるを得ない。資料1の3ページ目に新型コロナとの共存という言葉が、右の方に出てくるのですけれども、この共存も考えていくとなるとやはり、もう少し取り上げていかないと、厳しいのかな。取り上げてもらったほうが良いのかなというように感じています。以上がまず1点です。2点目ですけど、資料1の1ページ目の4番ですか。乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続という中の右側のほうですけど、来年度に向けてということで書いてあるのですけど、本当に保育園や幼稚園も園訪問をさせてもらって、保育士さんの姿を見ると本当にありがたいな、大変だなと感じます。小さい子をおんぶして、抱っこして、それで働いていて。頭が下がる思いで、いっぱいになりました。そういうのを見ると、教諭とか保育士さんの数の少なさというのはやはり、長年の課題であるということも聞かせてもらいましたし、そこにどう手を打っていくのか、それを何か策を設けていかないと、いつまでたっても変わっていかないのではないかな。人手はない、成り手もない、どうすればいいのかでずっと進んでいってしまうのでは、本当に御前崎市の小さい頃からの教育、積み重ねという土台の部分がきちんとされないうままでいってしまう心配があるかなと思っていて、そこをもう少し力を入れていってもらえるとありがたいと感じています。以上の2点です。

○御前崎市長（柳澤重夫） はい。松林さんから、幼児教育とコロナについて話がありました。コロナについては、なかなか収まらないと思うのですよね。どこまで強制していくのか、

コロナは園生活とか学校教育においてもとても重要な課題であるしね。これが広がったらもう教育そのものが成り立たなくなってしまう。これからコロナがどう推移していくのか、それを見ないとわからないと思うのですよね。だから家庭も一緒になって取り組んでいかないとかならないと思う。今、資料1の4番目について保育士について話があったけど、どうでしょう。そういったことを聞き、お気づきの点があったら発言をお願いしたいのですが。保育は大変だと思うのですよね。幼稚園もそうだけど。先生方も一生懸命頑張っていると思うし。教育委員の皆さんは、園や保育園の訪問はしているのですか。

○教育長（河原崎全） 年1回ですね。園訪問という形で、1周様子を見て回って、あと園長先生から説明を聞く形です。

○御前崎市長（柳澤重夫） それでは先生がたが一生懸命研修するときには誰が訪問するのですか。

○教育長（河原崎全） それは各教員同士の研修会とか、あと大学の先生が見えるそうですね。

○学校教育課長（鈴木秀和） 静岡県立大学の永倉先生と、保育に詳しい上智大学の奈須先生です。

○御前崎市長（柳澤重夫） 奈須先生が。それは、1年に何回あるのですか。

○学校教育課長（鈴木秀和） 1年に1回、スクラム研究会があって、あと、歳児研修と言って、4歳児の担任の先生たちが市内で集まったり、5歳児の担任の先生たちが集まったりするっていう研修会には、先ほど申し上げた永倉先生が指導してくださったりしています。

○御前崎市長（柳澤重夫） それが、スクールプランと言うのですか。

○学校教育課長（鈴木秀和） スクラム研究会やゼミです。

○御前崎市長（柳澤重夫） それを言っているのかな。それを先生方がみんな1週間も10日も、その前に、来る前にその研修をやるということかな。先生方は。

○教育長（河原崎全） 準備が負担になっているのではないかとということですね。

○御前崎市長（柳澤重夫） それが来るとなると、事前に知らせるでしょう。

○学校教育課長（鈴木秀和） そうですね。

○御前崎市長（柳澤重夫） だから、事前に知らせちゃうと、それに向けて先生方もよく見てもらいたいでしょ。だから、そのための研修を長くやるのですって。夜まで、研修を。だからそれが辛いというかな。だから、スクラムスクールでみんな勉強していますよね、先生方も。だから、抜き打ちでやってほしいって。明日行きますよ。それでいいという。それ

を先生が見に来るから、1週間も10日も勉強して、いいところだけを見せるのではなくて、抜き打ちで見て、そういったことがあったら指摘してもらえればいいのではないですか。そのために行くのでしょうか。いいところだけを見に来るのではないと思うのですよ。抜き打ちでやって、改善するところは改善してもらおう。そうでないと改善は出来ないのですよね。いいところだけ1週間、10日も研修して見てもらって、その後は知らないけどと、そういうことではないのですよね。今のままを見てもらって、改善した方がいいよということは改善する。そういうふうに伝えておいて、抜き打ちでやると。

いろいろ話が出たけど、難しいのですよね。教育というのは。いずれにしても、教育というのは一言で言うと人づくりですよね。ただ勉強しているのではなくて人間づくりだから、そういうことを考えながら、もちろん保護者もそうだけれど。子供たちにはもちろん学力向上が第一であっても、心や思いやりといった人間性は学力だけではできないものだから、いろいろな人とかかわりや体験とか、いろいろなものを体験してもらって成長してほしいと思う。子供たちには、やっぱり体験の数が多いいほど、人の心が豊かに育つよね。全然、体験活動をしなくて勉強だけやっている子供よりも、勉強は多少だけれど遊びや体験活動とかいろいろなことに触れている人の方が、人に対する思いやりだとか、心というのは、当然変わってくると思うのですよね。社会集団、集団生活というか、学校もそうですよね。いろいろなその集団生活の中で人間は育っていくと思うのですよね。そういった体験が多いいほど良いということですよ。そういった意味でいろいろなことを考えながら、教育現場の先生方が考えてもらうってことですよ。だから私も部長もみんな、学校で先生に教えてもらっているけど、先生というのは印象が残っているよね。だから、ただ、勉強のことだけじゃなくて、今、社会の中にいろいろな問題があるよね。ニュースでもやっているし、先生方も教壇で社会のことを言ってみたりする。そうやって先生が自分の魅力づくりをして、先生が子供たちを引きつけるということも必要だと思いますよね。一言言ってから勉強を始めたなら、多少、雰囲気も変わってくるし、いきなり勉強ではなくて。それと勉強の雰囲気づくりというか、取り組みやすい環境をつくってやるというのもいいことですよ。だから、少なくとも3年、4年は民間に勤めて、いろいろなことを体験して、いろいろなこと、社会のことを覚えてから先生になってほしいなと思って。なかなか出来ない相談ですけど。そうしたら人間性も変わってくるよね。そういう社会を体験した人が、勉強を教える方が良いのかなと考えたりもするのだけ。はい、どうぞ。

○教育長（河原崎全） すみません。1番最初に竹田委員さんから、基礎学力のお話が出たのですが、私も何気なく基礎学力の定着という言葉、竹田さんがおっしゃるように余り深く考えないで、入れてしまっているのですけれども。確かに基礎学力は何で計ればいいのかと言ったときに、以前だったらもっと簡単だったと思うのですよ。計算ができるとか、漢字が書けるとか。また、歴史の年代を暗記するとか、そういうものでよかったと思うのですが、やっぱり今の大学入試等を見ても、試験で入学する子の半分は推薦入試なんかで決まっています、この時期に教科のテストで入る子はもう半分を切っているのですよね。ということは大学あたりでも、合否の施策が以前と変わってきているということで、年代が下に降りてくれば、もう小学校、中学校でも、ただ暗記すればいいというものではなくなってきていると思います。そういうときに何を尺度にしていくかというのが非常に難しいと思うのですよね。ただ数字というのは、非常に説得力もあるし、大切なところもあるものですから、私は、難しくてもやっぱり何かテストみたいなものは必要なのだろうなと思っています。それで、どうしても先生方の中には、そういうテストで子どもたちを評価するのは良くないのではない

かという考えをお持ちの方もいらっしゃいます。それでは、どういう内容のテストなのかというのが問題になると思ったら、昔ながらのテストというのでは、もうちょっとまずいのだろうかと思うのですが。今の流れに沿ったテストなら、やっぱり大事にしていっても良いんじゃないのかなと思いますしね。そうしたときに、しっかり私も調べてありませんけど、全国の学力学習状況調査等を見ても、以前とは問題の出し方が変わってきていると思いますので、やっぱり何かそういう、国がやるような調査というのは、1つの物差しにはなるのかなと思っています。ただ、それを目的としてしまうと、そのテストで点数を確保するために何回も練習をやってみたりするとなると、本末転倒になってしまうものですから、その辺りをうまく先生方に理解してもらう必要があるのかなと思います。高校でも専門高校だと、工業でも商業でも、検定があって、それを1つの励みにするときがあるのですがね。そればかりやってしまう先生もいるのですよ。そうすると、それでいいのかという話になりますしね。商業だったら、何かそういう資格をとるだけじゃなくて、コンビニを自分が経営するとしたら、どういう商品を置きましょうとか、どういう並びにしましょうとか、そういうようなマーケティングのことを考える。そういうものが、今、重視されているのですが、やっぱりそういうものも1つの事例みたいなものだと思うものから、資格ばかりがいいのではないのだと思うのですが、ただ、さっきちょっと出た、子供たちにちょっと上の目標を与えて、これをクリアしたらまた次ということは、何か意欲づけしていくには、そういうものもあっていいのかなと思うのですが、それが最大の目標になると、ちょっとどうなのかなというところがあって、非常に難しいところだというのがあります。ただやっぱり、基本的な学力も無視できないので、そこはやっぱり、市民の方々にも理解してもらえそうな形で何かを示していく必要があると思います。全国の学力学習状況調査とか、体力診断テストとか、そういうものは、結果としてこうですよというのを示す材料としては必要かなと思います。それを上げるために我武者羅になるということはおかしくなってしまうものから、結果としてこうなりました、ここが足りないからここを補っていきましょうというような、そういうものも材料にしていければいいなと感じます。あともう1つですね、教員の問題なのですが、なかなか園の先生の問題、大きな問題だと思っています。小学校、中学校の先生方、ストレスチェックをやっているとして、学校ごとに出てくるのですけれども、市全体で見ると、皆さん本当に仕事が大変だと、負担だということを言っています。ただ、それ以上に上司とか同僚からのサポートがありますよとか、自分で働きがいを持っていますよという、その気持ちのほう为上回っているという結果が出ています。仕事は大変なのだけれども気持ちで、そういう結果が市全体で出ているものから、ありがたいなと思うのですけれども、園の先生方には、市でストレスチェックを個々にやっているのですが、その分析をしていなかったものから、所属ごとにどんな特徴があるのか、ちょっと調べてみて、それを職員の勤務関係を見るときに材料にしたいなと思っています。市の職員全体、ストレスチェックをやっているものから、そこをもう一度見直す必要があるかなと思います。あとは、人材確保のために、担当が保育の仕事フェアとか、紹介するようなどころにも出ていって、なるべく興味を持ってもらうようには動いているのですが、御前崎市に限らず、園の先生が足りないという現実があるものから、これからも大学等にも出向いていって広報していく必要があるのかなと思います。以上です。

○御前崎市長（柳澤重夫） いろいろな御意見をいただきましたし、有意義な会だったと思います。他にはいいでしょうか。いいですかね。ありがとうございます。それでは令和4年度御前崎市教育計画については、以上としたいと思います。事務局にお返しします。

○司会　さまざまな御意見を頂戴いたしました。ありがとうございます。研修会の持ち方等も検討して参りたいと思います。本日は、副市長、健康福祉部長、総務部長も出席しております。現在、健康福祉部につきましては、先日も新聞に掲載がありましたが、教職員のワクチンの優先接種ということで、今、進めております。また、総務部では、教職員、職員のほうのワクチン対応で、抗原検査キットを配備していただきまして、そちらを活用して安全な事業を行っているような形です。それでは、本日、以上の意見をいただきましたので、それを踏まえて今後生かしていきたいと思います。

#### 4 閉　　会

○司会　それでは、以上をもちまして、令和3年度第2回御前崎市総合教育会議を閉会とさせていただきます。